

一般質問の質問時間は、答弁を除き、1人30分であります。所定の時間内に終わるよう質問・答弁とも簡潔に要領よくお願いいたします。

また、質問は通告の範囲内にとどめるよう、ご協力をお願いいたします。

通告順に発言を許します。

宮島 宏議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

宮島議員。〔14番 宮島 宏君登壇〕

○14番（宮島 宏君）

おはようございます。清新クラブの宮島 宏です。

今回の私の一般質問では、3点の質問をいたします。いずれも「糸魚川の宝を守り活かす、ひと、こと、もの」に沿ったものです。

これより質問に入ります。

1番目の質問です。故中村榮美子さんの紙芝居資料の活用についてです。

NPOまちづくりサポーターズの副会長であった故中村榮美子さんは、失われつつあった糸魚川地域の民話を精力的に調査され、日本電信電話公社からNTTに勤務されていた時代には「テレホン民話」として糸魚川の民話を広く情報発信してきました。その後、地元の画家とのコラボレーションによって地元の民話を紙芝居作品として構築し、紙芝居師として様々な場所で地元の民話を紹介してきました。以下伺います。

- (1) 市に寄贈された故中村榮美子さんの紙芝居資料の概要と、寄贈に至った経緯を教えてください。
- (2) 故中村榮美子さんの紙芝居資料を今後どのように活用していく予定ですか。
- (3) ご遺族はテレホン民話などの故中村榮美子さんの音声を記録したカセットテープを所有されています。そして、その活用を望んでおられます。市に寄贈された紙芝居作品や既存の紙芝居作品と中村榮美子さんの音声を組み合わせれば、中村榮美子さんによる紙芝居のデジタルコンテンツを制作することができます。そして、そのデジタルコンテンツは、地域の民話をより広範に発信することに活用できると思います。そのような取組については、いかがお考えですか。
- (4) 紙芝居は極めてアナログのプレゼンテーションですが、子供たちの教育にも生かせる手法だと思います。教育に導入することについては、いかがお考えですか。
- (5) 紙芝居師としての故中村榮美子さんの後継者を育成する必要があると考えますが、いかがですか。

続きまして、2番目です。林道入山線の今後についてです。

小滝川ヒスイ峡エリアは、糸魚川ユネスコ世界ジオパークを代表するジオエリアの一つで、その核心部の国指定天然記念物「小滝川硬玉産地」に至る最短ルートが林道入山線です。私は、この30年間幾度となくこのエリアの案内してきましたが、できる限り入山線でヒスイ峡に入るようにしてきました。その理由は、入山線を進むにつれて、眼下の小滝川の清流とともに明星山の石灰岩の絶壁が眼前に迫り、例外なく見学者が感動するからです。林道入山線には、心を揺さぶる風景が

あるのです。

しかしながら、今年度は昨冬の大雪で破損した落石防止柵の復旧工事などで入山線が開通したのは8月11日でした。その後の8月21日に落石が確認され、通行の安全を確保できないことから、今年度の通行止めが決定されました。ヒスイが新潟県の石に認定されようとしている中、小滝川ヒスイ峡へのアクセスは今まで以上に重要となりますので、以下伺います。

- (1) 今回の落石は2018年8月に巨大な落石があった現場の近傍でした。落石が発生しやすい場所は把握できていますので、そのような場所に、より確実な落石防止対策を講じることを検討されていますか。例えば落石多発地にロックシェッドがあれば安全に通行できます。諸機関と連携して、より確実な落石対策を検討されてはいかがでしょうか。
- (2) 今年度の通行止めでは、瀬野田の分岐点にある看板が日本語のみの表記であったため、外国人の観光客が道が分からず困っていたそうです。地元の方は、言葉の壁で迂回路を伝えるのに苦労したと聞いています。これは入山線の例ですが、入山線に限らず市内の臨時の看板にも英語表記やQRコードによる文字情報提供をされる考えはありますか。

3番目です。ゼロカーボンパークについてです。

ゼロカーボンパークとは、国立公園で電気自動車などを使用したり、国立公園内の施設で再生可能エネルギーを活用したり、地産地消を進めることで国立公園の脱炭素化を目指すとともに、脱プラスチックも含めてサステナブルな観光地づくりを実現していくものです。

国内では10のエリアが指定され、県内では妙高戸隠連山国立公園の妙高市が本年3月に指定されています。当市の第3次総合計画では、再生可能エネルギー導入等による二酸化炭素排出量の削減が施策の方向に明記されており、今年度は国連海洋科学の10年に合わせて、積極的な海岸清掃、海洋マイクロプラスチック問題についての講演会や展示会が行われています。このような情勢を鑑み、以下について伺います。

- (1) 妙高戸隠連山国立公園に属する雨飾山周辺、中部山岳国立公園に属する蓮華温泉周辺を、ゼロカーボンパーク指定に向けて取り組む考えはありますか。
- (2) ゼロカーボンパークの思想や方法をジオパークに応用し、「ゼロカーボン・ジオパーク」や「ゼロカーボン・ジオエリア」を当市のジオパークで進め、国内のジオパークに導入を提案する考えはありますか。
- (3) 国連海洋科学の10年関連の講演では、身近なことから脱炭素・脱プラスチックを一人一人が実行することが、海洋ごみ削減と地球温暖化防止の第一歩と講師が強調されていました。言うだけでなく、行動で示すことが大事だと思います。例えば公共施設内のペットボトル容器入りの飲料販売を縮小あるいは廃止する考えはありませんか。また、食品ロス削減のために「まえどり習慣」を当市で広く普及させる考えはありますか。

以上、1回目の質問です。よろしくお願いたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

宮島議員のご質問にお答えいたします。

1 番目のご質問につきましては、この後、教育長から答弁いたしますので、よろしくお願い申し上げます。

2 番目の 1 点目につきましては、今年度中に林道上部の現地調査を行い、その結果を踏まえ、対策工法を検討してまいります。

2 点目につきましては、外国人観光客に対応した多言語表記や周知方法を検討し、分かりやすい情報提供に努めてまいります。

3 番目の 1 点目につきましては、実効性のある脱炭素の取組が必要であるため、情報収集を進めながら調査・研究を行ってまいります。

2 点目につきましては、ユネスコ世界ジオパークには、地球温暖化や気候変動に対する貢献が求められることから、ジオパーク活動の推進がゼロカーボンにつながるものと考えております。

3 点目につきましては、地球環境の保全などのためには、ペットボトルなどプラスチック製品の使用を減らすことが大切であると認識しており、飲料販売の脱炭素の取組について情報収集を進めてまいります。

また、食品ロス削減推進のため、広報紙やホームページで広く周知を図ってまいります。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もありますのでよろしくお願い申し上げます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

霧本教育長。〔教育長 霧本修一君登壇〕

○教育長（霧本修一君）

おはようございます。

宮島議員のご質問にお答えします。

1 番目の 1 点目につきましては、紙芝居 8 2 作品の寄贈を受けたものであり、中村さんの生前のご意向を受け、ご遺族から紙芝居の保管と活用の申出があったものであります。

2 点目につきましては、図書館での展示や読み聞かせに活用するほか、外部の団体などで活用できるように検討してまいります。

3 点目につきましては、ご遺族に確認した上で検討してまいります。

4 点目につきましては、幼稚園や保育園、小学校での読み聞かせなどで紙芝居を活用しております。

5 点目につきましては、関係団体と協議して進めてまいります。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

宮島議員。

○14 番（宮島 宏君）

最初に、紙芝居についての質問をいたします。

ただいま教育長から、紙芝居を読み聞かせ等に活用されてるという答弁がございました。読み聞かせと紙芝居というのは、かなり手法が違います。具体的に言うと、読み聞かせは、読む人があま

り感情を入れたり、声の強弱、抑揚、こういったものをつけずに子供に提供する。それに対して紙芝居は、その対極にあるんですね。かなり紙芝居師が演劇ふうに語ったり、場合によっては身振りをやったり、その両方をぜひ幼稚園や保育園で、分けてやっていただきたいなと思いますけど、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

穂苺生涯学習課長。〔教育委員会生涯学習課長 穂苺 真君登壇〕

○教育委員会生涯学習課長（穂苺 真君）

おはようございます。

お答えいたします。

議員おっしゃるとおり、それぞれの対象者によっていろいろ、読み聞かせですとか紙芝居ですとかということで、対象者によって分けていくというのが重要でないかなというふうに考えております。おっしゃるとおり、読み聞かせと紙芝居については、手法が若干違うのではあります。読み聞かせの中でも、そういうふうに読み聞かせをやられてる方もいらっしゃいます。その方々に、またお話をさせていただきながら、お願いしていきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

宮島議員。

○14番（宮島 宏君）

紙芝居師としての中村榮美子の後継者の育成についてですが、読み聞かせの経験がある方、それから紙芝居そのものの経験がある方、いろいろいらっしゃると思うんですが、今まで紙芝居をやっていたらなくても、例えば学校時代に、あるいは現在、演劇活動をなさってる方というのは、十分、紙芝居師になる資格があると思います。その辺りで紙芝居師を新たに養成する、そういったお考えはいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

穂苺生涯学習課長。〔教育委員会生涯学習課長 穂苺 真君登壇〕

○教育委員会生涯学習課長（穂苺 真君）

お答えいたします。

先ほど教育長答弁でもございましたように、これからまた検討して、進めてまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

宮島議員。

○14番（宮島 宏君）

人類の歴史というのは、継承が非常に大事ですので、途切れずに紙芝居の文化を続けていただきたいと思います。よろしくお願います。

この紙芝居、これは福井県立のこども歴史館という県立の博物館が作った紙芝居です。オリジナ

ルの紙芝居。絵は学芸員、それから文章も学芸員です。

実は私、この紙芝居の文章や絵の監修をさせていただきました。この内容は、福井県の武生出身の鉱物学者、市川新松さんという方なんですけれども、その方は明治時代に小学校を出て、鉱物に興味を持ったんです。当時の学問というのは、大学を出てないと鉱物学とかはできない。そういった世の中でした。当時の学会からも、かなりいじめられたわけです。だけど市川新松さんは、独学で鉱物学を学び、それから英語を学び、さらにはアメリカの非常に有名なアメリカン・ジャーナル・オブ・サイエンスという学術雑誌、そういったものに水晶の論文を幾つも投稿しました。そういった地域の偉人を子供たちに紹介する内容です。

これと同じように糸魚川市でもオリジナルの紙芝居、例えば具体的に言うとナウマン博士とか、それからフォッサマグナ、あるいはヒスイ、ジオパーク、そういったものを紙芝居等で子供たちに伝えていくと。相馬御風さんなんかもその対象になり得ると思います。今までこういう小さい子供を対象としたふるさと教育というんですかね、そういったものってどの程度意識されて実践されているのでしょうか、伺います。

それから、併せてこういったものの新たな政策、そういったものへの考えというのはいかがでしょう、2つ伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

大西商工観光課長。〔商工観光課長 大西 学君登壇〕

○商工観光課長（大西 学君）

おはようございます。

お答えさせていただきます。

私のほうからは、ジオパーク活動の取組につきまして、お話しさせていただきたいと思います。

昨年度、糸魚川ジオパーク協議会と糸魚川白嶺高校で協力しまして、焼山の火山防災をテーマとします紙芝居のほうを作成させていただいております。

宮島議員のおっしゃるとおり、紙芝居は子供たち、特に幼児に対してジオパークや文化・歴史等を理解するために有効な教育ツールであることから、引き続き活用に努めてまいりたいと考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

山本文化振興課長。〔教育委員会文化振興課長 山本喜八郎君登壇〕

○教育委員会文化振興課長（山本喜八郎君）

おはようございます。

お答えいたします。

今ほど商工観光課長のほうから、昨年度ジオパーク協議会で紙芝居のほうを作成したということをお答えさせていただきましたが、その際に私ども、博物館の学芸員も携わっておりまして、ストーリーの面で全面的に携わっております。

そういったことから、今後、今ほどご提案のありましたナウマンですとかフォッサマグナ、あるいはジオパーク、ヒスイなど、そういったことが今後、紙芝居としてできるかどうかという可能性

について、今後、学芸員と相談する中で進めてまいりたいというふうに思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

宮島議員。

○14番（宮島 宏君）

紙芝居の場合は、ストーリーを書く人、それから絵を描く人、その2人が重要になるわけですが、既に中村榮美子さんの紙芝居で地元の方の絵、そういったものはできてるわけですね。ですから、やってもらえそうな人は既にいるわけです。それから市の職員でも、福祉事務所長のように市展に入選するぐらいの絵の腕前がある人はいます。そういった人を総動員すれば、オリジナルのすばらしい内容の紙芝居を比較的短期間に作るができると思いますので、よろしく願いいたします。

続きまして、林道入山線の話です。入山線、私も何度となく通って、2018年の8月ですか、平成30年、非常に巨大な落石がありました。その落石の大きさとか重さとか、そういったものも今お分かりになれば、ご紹介ください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

木島農林水産課長。〔農林水産課長 木島美和子君登壇〕

○農林水産課長（木島美和子君）

平成30年に落石があったその石の大きさということですが、平成30年の際は、3メートル掛ける1.5メートル掛ける1.6メートルという、これまでにないような大きな石が落ちております。以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

宮島議員。

○14番（宮島 宏君）

今、木島課長から紹介いただいた2018年8月の落石、これはかつてない大きさのもの、長さが3メートル、高さ1.5の幅1.6ですから、比重を2.7で計算すると大体20トンぐらいの重さになります。そういったものが斜面から入山線に落下して、道路の途中で止まりました。これは当時の建設産業常任委員会にも報告されたことですが、道路自体が壊れてしまいました。このような落石が再び起きた場合に、例えばロックシェッドをそこに設けたとしても、ロックシェッドが壊れてしまう、そういったこともあるんじゃないかと、素人ながら思うんですが、その辺りはいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

木島農林水産課長。〔農林水産課長 木島美和子君登壇〕

○農林水産課長（木島美和子君）

ロックシェッドにつきましては、確かに恒久的な対策としては有効な部分もあるかとは思いますが

が、やはり上部の山というのが落石が多く、転石が多く存在する山でございまして、その石のサイズによっては、議員おっしゃいますように、とてももたないということも十分考えられるというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

宮島議員。

○14番（宮島 宏君）

現場の状況に詳しい人に伺ったところでは、落石があった斜面には、現在でもかなり大きな石灰岩の転石が木に引っかかって止まっている状態だと聞きます。つまり、今後も大きな石灰岩の落石がある可能性があると聞きました。こういった状況の認識で間違いはないでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

木島農林水産課長。〔農林水産課長 木島美和子君登壇〕

○農林水産課長（木島美和子君）

議員おっしゃいますように、今回も1度目は分かんなかったんですけども、2度目に現場に行った際に、木の根元に今回落ちた石のサイズと同じくらいの石が引っかかっているのを確認しております。そのため、市長答弁にもありましたように、再度、上部の石の状況というのを全面的に調査した上で、工法につきましては考えていきたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

宮島議員。

○14番（宮島 宏君）

入山線が落石で通行止めになった後、小滝地域の方からヒスイ峡へのアクセスについてご意見を頂きました。その要旨は、次のようなものです。

入山線の景観は、非常に魅力的であり、アクセスルートとして使いたい。しかしながら、落石による事故が心配であるというものです。

したがって、入山線ではなくて、ヒスイ峡へのアクセスは、高浪の池経由でぐるっと回るようなルートが、より安全なんじゃないかと、そういうご提案でした。そのルートを使う場合には、現状でもかなり道幅が狭いところも幾つもあるんです。そういったものの改良工事が必要なんではないかということでしたけども、その辺りの意見については、何かコメントありますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

木島農林水産課長。〔農林水産課長 木島美和子君登壇〕

○農林水産課長（木島美和子君）

議員おっしゃいますように、高浪線のほうを使うというのも一つの方法ではないかというふうに思っております。

ただ、今年の秋の調査を踏まえまして、より安全性、それから費用対効果の面で高い手法というのを検討してまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

宮島議員。

○14番（宮島 宏君）

ヒスイについては、今年2月の県議会で中村康司県議会議員の質問に対して、知事が次のような内容で答弁されています。

申し上げますと、新潟県のヒスイは、全国で唯一国の天然記念物に指定され、議員ご指摘のとおり歴史的にも文化的にも大きな価値があると。ヒスイにまつわる観光地の積極的なPRを努めていきたいと、花角知事は、今年の2月に述べられております。

県の石に今、ヒスイがなろうとしている状況の中で、ヒスイ峡へのよりよいアクセスについて、市だけではなくて県あるいは国と連携して、より安全な、より通りやすい、そういったルートの検討が早急に必要かと思えます。いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

木島農林水産課長。〔農林水産課長 木島美和子君登壇〕

○農林水産課長（木島美和子君）

対策工法によっては、当然市だけではできないこともあるかと思えますので、そういったところにつきましても、国なり県のご理解、またご支援等もお願いする場面も当然あるかというふうを考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

宮島議員。

○14番（宮島 宏君）

入山線はこれで終わり、次はゼロカーボンパークです。

ゼロカーボンパークになるには、ゼロカーボンシティ宣言をする必要が、条件としてあります。県内では、既にかかなりの数の市がゼロカーボンシティを宣言しています。具体的には幾つぐらいの市が、ゼロカーボンシティを宣言されているのでしょうか、伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

猪又環境生活課長。〔環境生活課長 猪又悦朗君登壇〕

○環境生活課長（猪又悦朗君）

現在、県内では12の市町村が登録しているということでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

宮島議員。

○14番（宮島 宏君）

市で限定するとどれぐらいですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

猪又環境生活課長。〔環境生活課長 猪又悦朗君登壇〕

○環境生活課長（猪又悦朗君）

申し訳ありません。ただいま市の数につきましては、いま一度調べて、お答えさせていただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

宮島議員。

○14番（宮島 宏君）

市町村で12の数でゼロカーボンシティを宣言されてるということです。やっぱり市の行政というのは、時流に乗り遅れないことが大事なんじゃないかと思います。よそがみんなやったから、うちもやろうじゃないかというよりは、率先して、いいことは進めていく。そういった姿勢が大事だと思いますので、ぜひ早めにゼロカーボンシティを宣言していただいて、次の段階のゼロカーボンパークを目指していただきたいと思います。これは要望です。

当市には、2つの国立公園があります。妙高戸隠国立公園、それから中部山岳国立公園、それぞれ優れた場所として、例えば雨飾山とか焼山地域、中部山岳国立公園では、当市では蓮華温泉、そういったものがゼロカーボンパークの対象地域になり得ると。つまり当市は、2か所のゼロカーボンパークを持ち得るポテンシャルを持っているということです。仮に2か所のゼロカーボンパークを持ったとしたら、全国初なんですよ。まねようとしてもなかなかできることじゃないと思います。このことは、自然志向の人たちの交流人口の増加を招くだけではなくて、自然や環境を大事にする方々のIターンとかUターン、そういったものを決断する動機になるんじゃないかと私は思っています。この考えについては、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺総務部長。〔総務部長 渡辺孝志君登壇〕

○総務部長（渡辺孝志君）

私のほうからお答えさせていただきます。

一つのゼロカーボンパークということで、全国初ということになるんじゃないかというお話だと思います。それはやっぱり一つの市の、糸魚川市が持つ自然の魅力を発揮するというところで、発信力は強いというふうに思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

宮島議員。

○14番（宮島 宏君）

2つのゼロカーボンパークを目指すことの魅力というのは、どのようにお考えでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

猪又環境生活課長。〔環境生活課長 猪又悦朗君登壇〕

○環境生活課長（猪又悦朗君）

やはり先ほど議員がおっしゃった2つというところで、非常にジオパークという、私ども市の進めている方針とマッチする自然環境というところの資源を生かしたという取組の一つとしては挙げられると思っております。そこと、いわゆる私ども脱炭素の取組とかマッチングすることによって、日本、また世界のほうにも、今後さらなるアピールにもつながるというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

宮島議員。

○14番（宮島 宏君）

ゼロカーボンパークは、まだ始まったばかりの新しい事業です。環境省のホームページを見ますと2022年に始まったばかり。ですから、今のものなんですよ。2021年、失礼しました。昨年に始まった事業です。妙高市は今年なったと。やっぱり今が旬の事業に乗り遅れないということがすごく大事だし、2つのゼロカーボンパークを持つことは、もう日本全域にアピールできることだと思いますので、ぜひ庁内で鋭意ご検討いただきたいなと思います。これ要望です。

次に、ゼロカーボンジオパークの話題ですけども、糸魚川市は、世界に先駆けてジオパークという言葉で地質見学地に用いたところ。世界ジオパークの審査も、国内で一番最初に受けました。当初は、糸魚川ジオパークだけが、世界ジオパークに認定という話もあったんです。

ところが、同時に島原とか洞爺湖の人たちから、それは困るという政治的な要請で3地域が同時に認定されたという経緯があります。つまり日本ジオパークの先駆者、トップランナーだと私は思っています。糸魚川ジオパークというのは、ジオパークのトップランナーだと。それで、私はそのように思っているんですけども、糸魚川市としては、今の私のような認識、どのようにお考えになるでしょうか、伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

確かに国内初のジオパークは、糸魚川ジオパークがなったわけですが、他の2市も、それでは駄目だということではございません。日本は非常にジオパーク活動については、実質的に先行した国でありまして、レベルが高いところの位置づけされておられまして、そのユネスコが認められるジオパークになり得るところが数多くあるという中で、数多くはやはり認定できないよという中で絞り込まれて、第1回は3つということになったわけがあります。

その中で、裏話的には糸魚川ジオパークがトップですねという話はありませんでしたが、決して他のジオパークは駄目だということではなくて、それぐらいのレベルに位置づけられておるといった評価であったと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

猪又環境生活課長。〔環境生活課長 猪又悦朗君登壇〕

○環境生活課長（猪又悦朗君）

先ほど質問いただきましたゼロカーボンシティの取り組んでいる市町村数でございます。  
市の数は10でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

宮島議員。

○14番（宮島 宏君）

私もジオパークの認定時、職員として関わっていたので、裏話というか本当は糸魚川が最初だったんだよということを紹介させていただきましたが、市長答弁にありましたように、ジオパークのルールとして、最初は3地域認定できると。そういったルールに従って、糸魚川、洞爺湖有珠山、島原半島の3地域が同時に認定されたということでもあります。

私は、環境省が進めるゼロカーボンパークの手法や思想を、ジオパーク全体にも導入したらどうか。具体的に言うと、例えばあるジオエリアでは、電動のバイクを使ったり、要するにガソリンエンジンとかそういうのを使わずに見学する。そういった取組などは、比較的難しくなく実施できるんじゃないかなと思います。

こういった運動を、実は国内のジオパークで既にやっているところもたくさんあるんですが、それに対してゼロカーボンジオパーク運動というような名前をつけて広く推進すると、ジオパーク全体の底上げになるのではないかと、そういうふうに思っております。このような考えについて、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

大西商工観光課長。〔商工観光課長 大西 学君登壇〕

○商工観光課長（大西 学君）

お答えします。

先駆者として、糸魚川市とゼロカーボンの取組を進める場合には、ご提案のとおりエリア単位でモデルケース的に進める方法が適切ではないかというふうに考えております。何をするか、何ができるかといった具体的な内容や活動につきましては、環境省など関係団体と相談・協議しながら検討してまいりたいと考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

宮島議員。

○14番（宮島 宏君）

ぜひ早めにゼロカーボンジオパークを糸魚川から発信してください。よろしく願いいたします。  
昨年からはまった国連海洋科学の10年というものが、SDGsの14番目の目標、すなわち海の豊かさを守ろうに直結する取組です。各地のジオパークでも、この国連海洋科学の10年に合わ

せて様々な取組がなされており、本市では、海洋ごみの収集作業、普及講演、それからミュージアムでの海のアート展、海の未来とSDGsという企画展が、8月31日まで行われておりました。

こういった一連の活動の中で、私は6月25日に九州大学の磯辺篤彦先生の海洋マイクロプラスチックの講演、それから7月30日に行われた原田尚美先生、この方は、女性で初の南極観測隊の隊長になった方です。そういった方の講演で温暖化についての講演を聴く機会がありました。

その講演の中で、九州大学の磯辺先生は、マイクロプラスチックというのは、PCBなどを、有害物質ですね、吸着する効果があると。それは、いずれは食物連鎖の頂点にいる人間に戻ってくる。そういった非常に大きな問題があつて、それを解決するには、まず一人一人のプラスチックの使用量の削減、特にペットボトルの利用を今以上に控えることが大事だよと言っていました。

それから原田先生は、地球温暖化によって、今大きな台風が来てますけども、だから今年も大雨とかありました。豪雨や大型台風の発生だけじゃなくて、実は北極海が温暖化することで、冬の日本海の豪雪が引き起こされてると、そういった話がありました。ですから地球温暖化というのは、決して対岸の火事ではなくて、今ある危機なんですね。それをぜひ十分認識していただきたいなと思います。

そして大事なのは、温暖化というテーマは非常に大きなテーマけども、一人一人ができることがあるんだよと、原田先生はおっしゃっていました。それは、例えば「まえどり習慣」です。まえどり習慣というのは皆さんご存じだと思うんですけども、改めて言うとスーパーに並んでいる商品を手前から取っていきましょうという運動です。ともすると、後ろのほうに賞味期限が長いやつがあるので、後ろから取ってしまう。そうすると前にある賞味期限が短いものは、食品ロスにつながってしまう。ひいては地球温暖化になると。

市内のコンビニエンスストアなどでは、前取りをしてくださいというようなことが書かれています。ですが、市内のほかのスーパーマーケットを見ると、そういった表示をしているところは、私が利用しているスーパーではありませんでした。ぜひ市から市民の方に、まえどり習慣の励行、それは地球を守ることなんだよということを広く普及啓発していただきたいなと思います。非常に重要なテーマで身近でできると。子供でもできるし、誰でもできる。そういうのをぜひアピールしていただきたいなと思いますが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

猪又環境生活課長。〔環境生活課長 猪又悦朗君登壇〕

○環境生活課長（猪又悦朗君）

お答えします。

議員の今ご提案いただきました「まえどり習慣」、また食品ロスということであれば、以前から20・10・0運動、またドギーバッグの活用など、そういったものを習慣づけながら最終的にはごみの減量化につなげていこうという活動でございます。そちらにつきましては、今後、市としてもそういった事例を改めてお示ししながら、推進していきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

宮島議員。

○14番（宮島 宏君）

最後になります。

ペットボトルの自動販売機の状況、特に公共施設の状況を拝見いたしました。例えば本庁にある自動販売機の中でペットボトルはどのくらいあるのかなと見たら、ものすごい少ないんですね、見たら。紙とか缶はありますけども、ペットボトルほんのごくわずかです。そういったことをぜひほかの公共機関、あるいは市内の事業所、そういったところでも励行するように普及啓発していただきたいなと思います。この辺りいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

猪又環境生活課長。〔環境生活課長 猪又悦朗君登壇〕

○環境生活課長（猪又悦朗君）

今ほど議員のおっしゃいましたとおり、自動販売機ということになりますので、それぞれ自動販売機の設置業者の考え方があったり、いろいろあると思っております。

私ども公共施設につきましては、その施設の内容であったり、利用者の状況であったりということで、一概にペットボトルからほかのものに替えるというところも、なかなか難しいのではないかなというふうに考えております。そういったところを今後しっかりと市民に対して、また市外から糸魚川市へおいでになる方、そういった方々にも十分な理解を求めていく中で、調査研究ということになりますけども、進めていきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

宮島議員。

○14番（宮島 宏君）

お隣の妙高市では、ゼロカーボンパークになるに当たって、ゼロカーボンシティを宣言してるわけですけども、具体的にみると、例えばウォーターサーバーを置いてマイボトル、そういったものを普及してるそうです。当市の市役所でも、そういった運動を徐々に始めるお考えはありませんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

猪又環境生活課長。〔環境生活課長 猪又悦朗君登壇〕

○環境生活課長（猪又悦朗君）

今ほどの妙高市の取組につきましては、今ほどのゼロカーボンパークの取組ということで、妙高市さんが公共機関7か所ぐらいでしょうか、そういったものを取り組んでいるということで、お聞きするところでは、特に大きな混乱はなかったということでございます。

ただ、設置場所が、今のところは混乱のないところであったのかなということもありますので、先ほど申し上げましたけども、私どもの設置をすることによって影響を受ける方々、せっかく市に来たのにということもございますので、そういったところをしっかりと確認、調べながら進めていきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

宮島議員。

○14番（宮島 宏君）

これにて、終わります。ありがとうございました。

○議長（松尾徹郎君）

以上で、宮島議員の質問が終わりました。

関連質問はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

関連質問なしと認めます。

ここで、暫時休憩いたします。

再開を11時5分といたします。

〈午前10時57分 休憩〉

〈午前11時05分 開議〉

○議長（松尾徹郎君）

休憩を解き会議を再開いたします。

次に、和泉克彦議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

和泉議員。〔13番 和泉克彦君登壇〕

○13番（和泉克彦君）

和泉克彦でございます。

発言通告書に基づきまして、1回目の質問をいたします。

1、新型コロナウイルス感染症及びワクチン接種の現状と課題、そして今後について。

(1) 1回目から4回目までの接種状況及び5歳から11歳までの接種率について伺います。

(2) これまでの接種における副反応と後遺症の報告について伺います。

(3) 現在、4回目の接種が行われています。厚生労働省は8月8日、新型コロナウイルスのオミクロン株に対応したワクチンの接種を、2回目までのワクチン接種を終えた全ての人を対象に、10月中旬以降に開始する方針を決定したとの報道がありました。行政としては、今後、どのような対応をしていくのか伺います。

(4) このことにより、3回目、4回目のワクチン接種を控える方がいるかと思われれます。現在、どのような反応があるのでしょうか。また、今後、予想される反応に対して、どのように対応していくのか伺います。

(5) これまで、政府、厚生労働省は、「接種は強制ではない」として、未接種の方々への差別や誹謗中傷等がないようにしてきましたが、新型コロナウイルスの流行「第7波」を受け、